

## 新 除 草 剤

%で東北・北海道のノビエ優占地帯を対象とする「エビデン粒剤18.7」がある。

本剤は、非ホルモン型移行型で、マツバイに特異的な作用性のあるDBNの単用によつて生ずる水稻への薬害を回避するために、安全な使用量にして、不足する除草力をホルモン型のMCPBの協力作用によつて補ない、かつノビエに対しては接触型のPCPとDBNの協力作用を、1年生雑草に対してはMCPBとDBNの相乗作用を利用するという、水田雑草の防除に必要なして充分な配合をしたものである。

使用が極めて不適当な場合には、水稻に薬害を生ずる。その症状は、土壌的要因の場合にはDBN特有の出すくみ・心枯れ・ぜい弱化がみられ、低温の場合にはホルモン型特有のロール葉・株開張が現われる。

魚貝類に対しては、毒性があるので、使用地域および排水の時期などについてはPCP除草剤に準ずる。

使用方法：田植後7～10日の活着後に、3～5センチ湛水のまま、10アール当り2.5～3キログラムを全面に均一に散布する。使用水田の条件としては腐植に富む埴土～壤土で1日の縦浸透量2センチ以下（洪積土では4～5センチ以下、沖積土では0.5センチ以下）とする。高寒冷地での使用はしない。

アクチノール

### Ioxynil乳剤

（取扱会社）

シオノギ製薬株式会社

イーライ・リリー・インターナショナル・  
コーポレーション

性状・作用特性：本剤は、1964年以来M

&B8878Eの試験名で試験を実施してきた除草剤で、本年度春播小麦地帯で実用化が認められた。その主成分は、8・5・ジヨード・4・オクタノイルオキシベンゾニトリル（一般名アイオキシニルオクタノエート）で、剤型は30%乳剤である。

本剤の作用特性は、広葉一年生雑草に強い殺草力を示す非ホルモン型接触型除草剤で、呼吸阻害及び光合成の阻害によつて雑草を枯死させる。雑草種類に対する選択性は、広葉一年生雑草に大、イネ科・カヤツリグサ科雑草に小の選択性を有し、特に秋発生雑草一東北部のハコベ、関東北部のノミノフスマ・ノボロギク、四国のヤエムグラ・タネツケバナ、九州のニワヤナギ・ヤエムグラなど一の生育初期処理に顕著な殺草効果を示す。しかし、イネ科雑草とツユクサ等には効果が劣る。

土壌中の残効期間は2～10日と短く、移動性は極少～少と安全である。また、温度による効果の変動はなく、安定している。

小麦に対する薬害については、小麦の2～4葉期処理では殆んど認められないが、温暖地では軽い葉先枯れが出ることもある。

人畜毒性は、マウス径口LD50が205mg/Kg、径皮LD50が1,240mg/Kgであるが、魚毒性は稚コイで48時間TLMが0.32ppmと農薬分類上「C類」に相当するので、使用に当つては薬液が河川等に飛散流入しないよう特に注意する。しかし、実用薬量による魚毒性はPCPの約20分の1程度である。

使用方法：春播小麦畑の火山灰土地帯を対象として広葉雑草の発生揃期から2～6葉期までの時期に10アール当り製品120～1600cc

## 新 除 草 剤

を50～100ℓの水に溶かして散布する。

本剤は接触剤であるので、加圧式噴霧器を用いて雑草の莖葉によく附着するよう散布する。秋発生雑草には、越冬後は効果がおちるので、年内に散布する。イネ科雑草には効力が劣るので、メヒシバなどが優占している畑では使用しない。降雨直前の散布は避ける。

他の作物、とくに広葉作物のナタネ・ビート・エンドウ・ソラマメ等に薬液がかからないよう注意すると共に、原液や散布液の残りを直接河川に流さないように注意する。

レンザー

### Lenacil水和剤

(取扱会社)

丸 和 物 産 株 式 会 社

性状・作用特性：本剤はH-634の試験名で試験されてきた除草剤で、本年度は甘藷に実用化が認められた。その他、ビートには既に実用化されている。なお、そ菜ではホーレン草、イチゴに実用化されている。その主成分は、3・シクロヘキシル・5・0・トリメチレンウラシルで、剤型は80%水和性微粉末である。

本剤の作用特性は、非ホルモン型移行型除草剤である。播種後や苗植付後に散布することにより、土壤表面に処理層をつくり、そこから発生する雑草を抑制するという土壤処理用除草剤である。雑草種類間における選択殺草性は、一年生雑草については認められない。

適用雑草は、一年生のイネ科・広葉雑草いずれにも、また発生前・後処理に関係なく、高い除草効果を示すが、生育の進んだものやツユクサには劣る。

土壤中の残効期間は極めて長く、その移動程度は小さい。また、温度による効果の変動はない。

作物に対する薬害については、ビートでは土性によつて根部吸収薬害が懸念されるが、洪積火山灰では安全であり、また甘藷では殆んど薬害が認められないが、早堀用甘藷については現在試験中であるので漸らくの間使用しない。全般的にみると、本剤は殆んど接触殺草力はないので、作物の生育期処理でも安全である。

人畜毒性は、ラッテ径口LD50が11,000mg/Kgと安全である。

使用方法：ビートには播種後に10アール当り製品200～300gを、また甘藷には挿苗後に同100～150gをそれぞれ約100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。

適用土壤は、甘藷では全域可能であるが、ビートでは洪積火山灰畑において使用する。早堀用甘藷には、当分の間使用しない。

生育した雑草には効果が少ないので、雑草発生前か、いつたん手取除草後に散布する。また、土壤が乾燥している場合には効果が低下するので、雨あがりのときのように土壤が充分湿つているときに使用する。

本剤は、この他ハウレンソウの播種後処理及びイチゴの植付後処理用としても使用される。